The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	記念祭典竝二十五周年記念式
Author(s)	
Citation	懐徳. 1942, 20, p. 56-64
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/89093
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

懷德堂記事

▲記念祭典、重建二十五年式典竝記念講演　昭和十六年十月十一日記念祭典を執行、引續き重建二十五年式典を擧行、文部大臣、府知事市長より祝辭を寄せらる、右終つて東北帝大教授文學博士武内義雄先生の「懷德堂の經學」と題する講演あり。（別項收載）

▲理事改選　小倉、上野、木間瀨、江崎、古田の五理事任期滿了に付、同日新大阪ホテルに於て評議員會を開き、改選したるところ、重任と決す。

▲草茅危言印行　同十七年九月一日重建二十五年記念として中井竹山先生の著「草茅危言」全五卷を印行す。

▲現行講義、講演科目　**定日講義**　月曜、論語、康齋先生日錄、火曜、支那語、論語音讀、水曜、韓非子、木曜、萬葉集、十八史略、金曜、孟子、支那語、**土曜講演**　日本の南畫、滿洲國經濟の現狀、**通俗講演**　聖德太子の御經綸と世界新秩序、

●記念祭典竝二十五周年記念式

本堂重建滿二十五年を迎へ、秋晴の曉雨に大國旗はためく、昭和十六年十月十一日、午後一時から記念祭恒典竝に合祀祭及び記念式を行つた。顧問狩野直喜先生、理事上野精一、木間瀨策三、古田俊之助諸先生、坂間大阪市長、羽田京大總長、楠本阪大總長、佐々木惣一、佐多愛彦、牧健二諸先生をはじめ、舊門人聽講生ら百五十餘名參列木間瀨理事の挨拶ありて開式、奏

樂裡に祭壇のとばりをあげて獻饌し、小倉理事長代理上野理事、左記の祭文竝に合祀祭文を朗讀す。

各代表拜禮ののち撤饌、續いて記念式に移り、上野理事左記の式辭を朗讀、次で橋田文部大臣（木間瀨理事代讀）三邊大阪府知事、（伊藤學務部長代讀）坂間大阪市長より各左記の祝辭朗讀あり、聽講繼續者表彰があつて閉式、一同玄關前にて記念撮影をなし、次で記念講演に移り、東北帝國大學教授文學博士武內義雄先生の「懷德堂の經學」と題する講演があつた。午後五時閉會、同五時三十分から新大阪ホテルで記念祝宴を開く、席上、上野理事の挨拶、武內先生の謝辭があり、七時三十分宴終る。

▲祭　文

維昭和十六年十月十一日。懷德堂記念會理事長小倉正恆。敬以淸酌庶羞之奠。敢昭祭于懷德堂師儒諸先生。竝懷德堂記念會物故諸先生。及功勞者諸賢之靈。曰。

於虖盛哉。懷德之堂。師資相承。教澤用長。講明名教。扶持綱常。人心以正。學術以昌。樹德立言。載在文章。煌煌不朽。永仰耿光。重建之後。效法有方。日夕開講。橫渠之傍。木鐸鐺鐺。儒風復揚。今茲已經。廿五星霜。學徒日進。根幹愈張。于時變起。干戈悤忙。後生小子。敢掬餘香。任重力微。深恐顚僵。惟神聰明。鑒此寸腸。冀護　皇運。斯道益彰。虔修恒典。靈其翺翔。茲陳微誠。式薦酒漿。尙饗。

▲祭新奉祀者文

維昭和十六年十月十一日。懷德堂記念會理事長小倉正恆。謹設神位。以淸酌庶羞之奠。致祭于五先生二

君子之靈。曰。

嗚呼講師林森太郎先生。尤通國學。恪勤精勵。專講歌文。十有三歲。明解詳說。聽者受惠。

嗚呼講師岩井勝二郎先生。以心理學來講特科。縱論劇談。興趣頗多。

嗚呼講師理學博士新城新藏先生。天學權威。聲名四馨。星期第六。細論麟經。考據精塙。俾人傾聽。

嗚呼講師武藤長平先生。日本漢學。其爲擅場。縷々辨說。聽者滿堂。

嗚呼講師岡山源六先生。資性狷介。其潔如蘭。講說七年。潛心研鑽。尤長詞章。名震吟壇。

嗚呼評議員男爵藤田平太郎君。浪華豪富。好學尚賢。爲堂捐貲。二萬數千。其基愈堅。君惠是緣。

嗚呼理事今井貫一君。篤信好古。頗有史才。持身勤儉。尤長理財。推衆董事。廿五年來。量入制出。經紀取裁。堂之有今。君力多哉。

嗚呼吾堂。益固其存。七賢德澤。誠是因敦。感念之深。永矢不諼。自今而後。合祀先儒。以爲恒典。千載無渝。靈其尚饗。

▲小倉理事長式辭　本日茲ニ來賓各位ノ參列ヲ辱フシ、本堂恒例ノ祭典ト、物故諸先生並ニ功勞者諸君ノ合祀祭典ヲ執行シ、併セテ本年ハ、現懷德堂重建二十五周年ニ當リ、其ノ記念式ヲ擧行スルヲ得タルハ、洵ニ欣幸ノ至リナリ、本堂ガ舊懷德堂ノ敎學事業ヲ復興シ、以テ其ノ功績ヲ永ク後世ニ記念センガ爲ニ、曩ニ有志諸君ノ協力ニ依リ建設セラレタルハ、已ニ周知セラルヽ所ナルヲ以テ、茲ニ省略ス、而シテ現懷德堂ニ至リ、開堂以來施行セル事業ハ、主トシテ講義講演ニシテ、日曜

ヲ除キ毎夜之ヲ行ヒ、開講以來今日ニ至ルマデ、講義ハ約三千八百回、講演ハ約千五十回ニ及ビ、其ノ聽講者延人員五萬名ヲ算フ、尙別ニ漢學ノ學習ニ資スル爲ニ素讀科ヲ設ケ、靑少年ニ句讀ヲ授ク、其ノ脩了者既ニ五十名ニ上レリ、斯クテ本堂ハ、開堂以來終始一貫、大阪市民ノ風敎ニ資センコトヲ希ヒ、專心一意微力ヲ致シツヽ來リシガ、早クモ茲ニ二十五年ノ星霜ヲ經過セリ、顧ミレバ意餘リテ力足ラズ、遺憾ノ點少ナカラザルモ、而モ此間ニ在リテ、幾多ノ先輩熱心事ニ當ラレ、本堂ノ發達ニ寄與セラレタル多大ノ功績ヲ追懷スル時、轉タ感謝ノ念禁ジ難キヲ覺ユ、此祠壇ニ齋祀セル重建以來ノ諸先生、及功勞者諸君ハ、何レモ本堂ヲシテ今日アラシメタル恩人ナリ、就中初代理事長永田仁助翁、本堂ノ敎學ト經營トニ盡瘁セラレタル故西村時彦先生、最初ノ敎授松山直藏先生、常務理事今井貫一君等ハ本堂ノ基礎ヲ樹テラレタル功勞者ニシテ、其他物故諸君子ノ本堂ニ盡サレタル所ハ、枚擧ニ遑アラズ、本日此記念式ヲ擧グルニ當リ、吾人ハ此等先輩ノ遺德ヲ追慕シ、其尊靈ニ對シ、謹ンデ感謝ノ微忱ヲ捧ゲント欲ス、翻テ考フルニ、此二十五年間ハ、我ガ國運ノ前古未曾有ノ振張ヲ遂ゲタル時代ニシテ、產業經濟學問技藝、其他各方面ニ大ナル發達ヲナシ、所謂躍進日本ヲ實現セリ、如斯物質的方面ニ發展セルニ拘ラズ、其ノ間精神的方面ニ於テ、閑却セラレタル點ナキニアラズ、特ニ最近五年日支事變ノ勃發、歐米ノ風

雲日ニ急ヲ告グルニ當リ、內外ノ情勢激變ヲ告ゲ、或ハ國體明徵、或ハ大政翼賛等、各種團體ノ運動頻繁ニ起リ、官民一致協力、國難ニ對スルノ使命重大ナルヲ感ズルニ至レリ、是レ要スルニ、從來國民精神脩鍊ノ缺陷ニ處スル警告ト稱スベキナリ、然レバ則チ此現代世相ニ鑑ミ、吾ガ懷德堂ノ使命モ、彌々重大ナルヲ痛感スルモノナリ、幸ニ本堂關係者ハ堅キ信念ヲ以テ先輩ノ遺志ヲ繼ギ、師弟相共ニ提携シテ脩養ニ勵ミ、事業發達ノ爲ニ微力ヲ盡シツヽアリ、敦厚ノ氣風以テ見ルベシ、本堂ノ事業ハ、畏クモ　天聽ニ達シ、兩度御下賜金拜戴ノ光榮ニ浴セリ　聖恩優渥、洵ニ恐懼感激ニ堪ヘザル所ナリ、又大阪府大阪市ハ、本堂事業ノ重要適切ナルコトヲ認メラレ、開堂以來多額ノ補助金ヲ下附セラレ、更ニ大阪其ノ他ノ有志各位ハ、當初ヨリ巨額ノ義金ヲ醵出セラレ、本堂ノ維持經營、幸ニ安固ナルヲ得ツヽアリ、此機會ニ於テ府市當局、並ニ各位ニ對シ、深甚ノ謝意ヲ表セント欲ス、嗚呼懷德堂ノ淵源、夫レ如斯深ク、流レヲ此ニ汲ム者ノ世ヲ益スルヤ極メテ廣シ、而シテ今ヤ其ノ事業ニ於テ基礎確立セリ、是レヨリ益々日新ノ意氣ヲ以テ　聖恩ノ萬一ニ報ヒ奉リ、大方各位ノ期待ニ副ハムコトヲ念願ス、本日此記念式ヲ擧ゲタル所以ハ、聊カ過去ノ業蹟ヲ顧ミ、是ヨリ益々本堂ノ宗旨ヲ貫徹シ、其使命ヲ全ウセンコトヲ期スルニ外ナラズ、來賓各位、希クハ微意ノ存スル所ヲ諒察セラレ、尙一層聲援ヲ賜ハランコトヲ、聊カ所懷

ヲ陳シテ式辭トナス、

▲橋田文部大臣祝辭　惟フニ財團法人懷德堂記念會ガ、享保以來由緒深キ本學堂ノ復興ヲ企テ、大正五年現在ノ地ニ之ヲ重建セシヨリ、爰ニ二十五年、啻ニ前緒ヲ紹述シテ、國民道德ノ淵源ヲ闡明スルノミナラズ、マタ克ク時勢ノ進運ニ卽シテ、諸學ノ振興ト本邦文化ノ向上トニ貢獻シ、成果歲ト共ニ擧リテ、遂ニ今日ノ隆昌ヲ效セルハ眞ニ欣快ノ至リニシテ、當事者多年ノ努力ニ對シ、衷心敬意ヲ表スル所ナリ、今ヤ我ガ國ハ、振古未曾有ノ重大時局ニ直面シ、前途倍々多事多難ニシテ、國民精神ノ振厲ト、皇國文化ノ昂揚トニ須ツコト愈々切ナリ、本會茲ニ懷德堂重建二十五周年記念式ヲ擧行シ、遠ク先人ノ遺芳ヲ追頌シテ、報本反始ノ誠ヲ致スハ、意義深ク洵ニ慶賀ニ堪ヘザルナリ、冀ハクハ關係者各位、深ク現下內外ノ情勢ト、本學堂ノ使命トニ稽ヘ、協力一致、愈々先蹤ヲ恢張シ、以テ國運ノ發展ニ寄與セラレンコトヲ、

▲三邊大阪府知事祝辭　大阪敎學ノ異彩懷德堂再建開堂、茲ニ二十五年ニ達シ、本日ヲ以テ記念式ヲ擧行セラルヽニ臨ミ、一言祝意ヲ表スルハ、最モ欣幸トスル所ナリ、惟フニ我ガ大阪ハ、古來獨特ノ文化ヲ長養シ、江戶京洛ト相對シテ、學流亦自ラ異色ヲ有シ、市井町人ヲ對象トスル實用ノ學鬱勃トシテ、市民ノ敎養ニ多大ノ影響ヲ與ヘ、所謂大阪町人ノ薰化ニ資スル所大ナルモノアリ、而シテ之ガ代表トシテ、嶄然浪華敎學ニ重キヲナシタルハ、

懷德堂ニシテ、端ヲ元祿末年ノ鴻儒三宅石庵ニ發シ、五井蘭洲、中山竹山、履軒等ノ碩學相踵キ、其ノ學統ヲ繼グ諸儒相承ケ、市井ノ富豪、向學ノ有志相助ケテ、以テ堂舍ヲ整ヘ、學規ヲ定メ、朱陸併用、專ラ實學ヲ主トシ、門戸ヲ町人ニ開放シテ、廣ク人材ノ鍊成ニ努メ、鬱乎トシテ旺ナルモノアリ、爾來時運ノ向フ所、盛衰變遷亦數ノ免レザル所ナリシモ、脈々トシテ一貫、實ニ百四十餘年ノ久シキニ及ヒ、大阪ノ文化特色アル大阪市民ノ敎養ニ盡シタル功績、寔ニ敬服ニ堪ヘザルナリ、然ルニ明治二年、時代ノ傾向ニ伴ヒ、學徒離散シテ學堂閉鎖セラレ、以來四十年廢絕ノ已ムナキニ至リタルモ、在阪好學ノ士相諮リテ、懷德堂復興ノ計ヲ樹テ、畏クモ御下賜金ノ恩榮ヲ拜シテ、講堂重建ノ議茲ニ決シ、地ヲ現在ノ形勝ニ選ビテ工ヲ捗メ、大正五年ヲ以テ開堂ノ式ヲ擧ゲ、前賢ノ遺芳ヲ傳承シテ、文化風敎ニ資スルニ至レルハ、最モ喜ブベキ學界ノ美事ト謂ハザルベカラズ、爾來茲ニ二十五年、關係ノ各位一意熱誠、事業ノ遂行ニ努力セラレ、皇漢ノ學ヲ講ジテ、德性ノ涵養ニ資シ、例年祭典ヲ執行シテ、古賢ノ顯彰ニ努メ、通俗講演ヲ開設シテ市民ノ知見ヲ廣ムル等、其ノ業績寔ニ顯著ニシテ、貢獻セラルル所大ナルモノアルハ、洵ニ慶祝ニ堪ヘザルナリ、今ヤ我國ハ曠古ノ時艱ニ際會、聖業ノ完遂、其ノ根柢ヲ國民精神ノ昂揚、臣道實踐ノ徹底ニ俟ツノ秋ニ際シ、本堂ノ使命愈々重大ナルモノアリ、希クハ關係者各位、益々協心

努力、本堂ノ事業ヲ遂行シ、大阪文化ノ淵源トシテ、有終ノ美ヲ發揮セラレンコトヲ、聊カ所懷ヲ述ベテ以テ祝辭トス、

▲坂間大阪市長祝辭　本日茲ニ懷德堂重建二十五周年記念式ヲ擧行セラル、洵ニ慶賀ニ堪ヘザル所ナリ、惟フニ大阪ノ地ハ、古來產業ヲ以テ著ハルト雖モ、文化ノ隆昌モ亦久シ、之ヲ儒學ニ觀ルニ、懷德堂ハ實ニ享保九年ノ創立ニ係リ、同十一年幕府ノ免許ヲ得テ公學トナリ、爾來百數十年ノ間、常ニ碩學ヲ聘シテ經ヲ講ジ道ヲ明ニシ、蔚トシテ浪華ノ文教ヲ支持シ、世道人心ニ裨益セル所甚大ナルモノアリ、明治維新ノ際、一時廢學ヲ見タルハ、洵ニ遺憾ナリシガ、幸ニシテ大正五年懷德堂記念會ノ盡力ニヨリ、本堂重建セラレテ茲ニ二十五年、此ノ間常ニ講義講演、其ノ他有意義ナル各種ノ事業ヲ行ヒ、以テ市民ノ教化ニ寄與セラルヽ所尠カラズ、曩ニ本會ノ目的及事業ノ計畫、畏クモ　天聽ニ達シ、大正三年同十二年、再度御下賜金ノ御沙汰アリ、昭和四年　今上陛下大阪行幸ノ御砌、特旨ヲ以テ侍從ヲ御差遣遊ばされ、又大正十五年　久邇宮殿下、同妃殿下、昭和十年　東久邇宮殿下親シク茲ニ台臨アラセ給フ、洵ニ光榮ノ極ミト謂フベシ、

茲ニ本日ノ盛典ニ列シ、心ヲ遠ク懷德堂ノ淵源ニ騁セ、思ヲ深ク本會ノ業績ニ致シ、其ノ教化ニ裨補セルトコロ多大ナルヲ偲ビテ、鑽仰ノ念更ニ切ナルモノアリ、謹ミテ物故師儒諸先生、及功勞者諸賢ニ對シ、深甚ノ敬意ト

滿腔ノ謝意トヲ表ス、冀クハ當事者各位、倍々協心戮力、愈々本會ノ目的達成ニ努メ、以テ皇恩ノ萬一ニ酬イ奉ランコトヲ、一言以テ祝辭トス、

堂友會記事

幹事　酒井全太郎

▲昭和十六年十月十一日　恒例により會員一同、本堂祭典に奉仕する、會誌第十九號を發行する。

▲昭和十七年一月一日　年賀會あり。會員數名參堂、先師儒諸先生の神位を拜す。

▲三月一日　天沼俊一先生の御指導による醍醐方面見學會を催す、三寶院の殿舍唐門、藤原時代初期の建築である國寶五重塔の內部を拜觀し、次で京都八阪神社に至りて塔を拜觀し、午後五時頃解散した。參加者五十名、盛會であつた。

▲五月十日　澤瀉久孝先生御指導による吉野宮瀧方面の萬葉遺蹟探勝會を催し、大鐵阿部野驛發、大和上市驛下車、借切バスを驅りて榮摘に至り、紙漉などを見つゝ吉野川上流に至り、川原にて休息の後、たきつ瀨に若葉はぬれて河鹿の聲もさやけき宮瀧附近の遺蹟を探勝し、上市へ歸りて解散する。一行十數名

▲五月二十四日　天沼先生の御指導による大和室生寺見學會を催し、平安朝前期の建築である五重塔や金堂など拜觀する、參加者約四十名、